



高齢者、障害者等に配慮した住宅 船橋の家

所在地：船橋市高根台

施主：野口嘉久

設計：(有)アトリエCOSMOS

施工：(有)持井工務店

この住宅は、70代の母親、40代の息子夫婦、20代の二人の子供たちから構成されている家族の住まいとして、それぞれの独立性、家族としての一体性を大切にしようとする意図で創り上げられた。

母親の居室は、一階南側奥の静かな場所に平家で建てられた和室と、寝室として使っている洋室の2室である。和室は絵を趣味とする母親のアトリエを兼ねており、友人との歓談の場ともなる。和室の掃き出しの窓からは中庭を介して居間、食堂の様子が見え、孤立することを視覚的に防いでいる。夫婦の書斎兼寝室は2階南側の奥まった位置にあり、大学生である子供たちには2階北側にそれぞれ個室が用意されている。

家族は玄関から食堂を通して各個室に入る。これは子供たちが成長し独立性の高くなった家族が、顔を合わせる機会を多く持つことができるよう考えられた方法であろう。



仕上材には、床や壁、さらにはサッシュにも木材が豊富に使われており、暖かみのある雰囲気を出している。

住宅の中心に中庭が配置され、この中庭を囲んで居間、食堂、母親の居室、子供の個室がそれぞれの部屋の開口部を中庭に向けて配置され、家族相互が暖かく見守りあい、家族としての一体感が感じられるように配置されている。中庭は内部でも外部でもない空間、自然を内部化するという意図で作られており、家族全員で決定したという”シャラの木”が記念樹として植えられている。各部屋からの夜の柔らかな灯りは、この家族を象徴するようにシャラの木を美しく照らしていることであろう。

母親がいきいきとした生活を楽しみ、家族もその意欲的な生き方をサポートしている様子が伝わってくる。景観に配慮した建築物の部門への応募であったが、むしろ、これからの高齢社会での3世代住宅のあり方を示すものとして評価された。

(青山 靖)

7

